

Title	漢字学習者のノートテイキング調査
Sub Title	
Author	池田, 幸弘(Ikeda, Yukihiro)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2011
Jtitle	日本語と日本語教育 No.39 (2011. 3) ,p.49- 59
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20110300-0049">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20110300-0049</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 漢字学習者のノートテイキング調査

池田 幸弘

## 1. はじめに

筆者は慶應義塾大学別科・日本語研修課程において技能別科目、初級表記法Ⅱおよび中級表記法Ⅰを担当している。

学習者は漢字学習の際、さまざまな方法を用いている。加納 (1997) は、非漢字圏学習者がどのような学習活動を実践し、その結果どのような漢字力を身につけていくのか探っている。加納 (1997) はその調査において、漢字学習の方法について、以下のような調査項目を設けている。1) テキストに出てくる順に覚える。2) 同じ部首の漢字や類似形の漢字をまとめて覚える。3) 読んでいる文章に知らない漢字があったら辞書を引いて覚える。4) ノートに整理して覚える。5) 字源や記憶のためのストーリーを使って覚える。6) 熟語や例文といっしょに覚える。7) 何回も手で書いて覚える。8) 何回も読んで覚える。9) カードを作ったり部屋にリストを貼ったりして工夫している。また、以上の9つの項目に、10) その他という項目を設け、それに対する回答として、形成文字の音符ごとにまとめて覚える。テレビや広告、看板などを見て覚える。新聞記事などを目で見て覚える。振り仮名つきの漫画を読んで覚える。漢字を書きながら声を出して読む。などの回答を得ている。

このように学習者は様々な方法を用いて学習を行っている訳だが、表記法のクラスの担当者としては、これらの方法をクラスで共有したり、また実践することで、より効率的な学習を提供できると考える。

効率的な漢字学習のために、池田 (2009a) (2009b) は、漢字の構成要素を活用して既習漢字を復習しながら新出漢字を学習するための調査を行い、池田 (2009c) は、中級のクラスにおいて、連想法を用いて、新出漢字学習の

際に、新出漢字から連想できるものを次々と記述していくという学習方法の実践報告を行った<sup>1)</sup>。

しかし、当然のことながら、1つの方法が全ての学習者にとって有効であるとは限らない。そこで、池田(2009c)の実践を踏まえ、記述するという観点から複数の学習方法を提示するためにも、そもそも学習者は漢字学習の際にどのような記述を行っているのか探りたいと考えた。学習者は授業中に各々でノートをとっている。学習者がどのようなノートのとり方を行っているか、それを調査・整理して、その結果を授業に還元できれば、学習者間でのノートテイキングの方法および学習方法の共有にもつながり、より効率的な漢字学習につながるのではないか。

そこで、本稿では、筆者がこれまで担当してきた初級表記法Ⅱのクラスで学習者が行ってきたノートテイキングの内容を調査し、それらの中で授業および学習者の学習に活用できるものを整理する。

## 2. ノートテイキングとは

小林(2000)は、ノートテイキングを学習者がいわゆるノートにメモするだけでなく、配布資料やテキストにメモしたり下線を引いたりすることも含めるとしている。本稿もこの考え方を採り、学習者が教科書やノート以外の授業で配布されたプリントや小さなメモその他に記述したのもも調査対象とする。

## 3. 調査方法

### 3-1 調査対象

調査対象としたのは初級表記法Ⅱの学習者が行ったノートテイキングの資料である。具体的には学習者のノートその他、授業で使用している配布プリント、教科書である。

初級表記法Ⅱの授業では配付プリントを2種類と教科書(『BASIC

KANJI BOOK (以下、BKB vol. 2』) を使用している<sup>2)</sup>。学習者は BKB vol. 1 修了程度であることを想定しており、一週間に 2 課ずつ学習する。配付プリントの 1 つは新出漢字をマス目に薄く印刷し、繰り返しなぞって形を覚えるための練習のプリント (以下、マス目シート) である。もう 1 つは教師がその週に学習する課の漢字を全て使って作成した短い文章と語彙が書かれている両面のプリント (以下、授業プリント) で、片面は全てひらがなで、もう片面は新出漢字のみ漢字表記されているプリントである。授業では、この授業プリントを用いて文の中で新出漢字を提示し、その後、教科書を用いて各漢字の形および語彙の確認を行っている。よって、本稿で調査対象となるのは学習者のノート (その他) とマス目シートおよび授業プリント、そして教科書へのノートテイキングになる。なお、本稿で調査したノート (その他) ・配布プリント・教科書はクラスの修了後に学習者が利用意図を了解した上で筆者に見せてくれたものであり、本稿は履修者全員のノートテイキングを調査したものではない。

### 3-2 調査方法

学習者のノートテイキングの調査方法としては、まず、学習者がノートテイキングを行った対象 (ノートその他・配布プリント・教科書) 毎にどのようなノートテイキングがされているか、その内容を分析し、その後、それらに共通して見られるノートテイキングの内容について考察する。

## 4. 学習者のノートテイキング

### 4-1 ノート (その他)

ノートを用いたノートテイキングには大きく 3 つのタイプが見られた。まず、授業での教師の板書内容を中心にノートをとったものである。次に、ノートに記述する際、教科書のような形にして内容を整理したものである。つまり、携帯用教科書のようなノートである。そして、自分で復習の際に使用すると考えられる語彙リストの形のものである。以上 3 つのタイ

プの他に見られたものについては最後に記述する。

#### 4-1-1 板書タイプ

板書タイプのノートテイキングでは新出漢字および新出語彙を（繰り返し）書く，新出漢字を構成要素毎に色を変えて書く，教師が説明の際に板書した絵を描く，筆順と方向を番号と矢印を用いて書く，動詞の自他，反対語，身体部位の語をまとめた表やチャート，図などを書くなどが見られた。これらの内容はほぼ教師の授業時の板書と重なるものであった。

#### 4-1-2 教科書タイプ

教科書タイプのノートテイキングでは，教科書のように各漢字について発音や訳，語彙，例文を書いて整理してあるものが見られた。クラスで使用している教科書はある程度重さがある。通学時やちょっとした時間に漢字学習を行うためには，このように小さく携帯しやすい教科書のようなものを作成することは非常に有効であると考えられる。

#### 4-1-3 語彙リスト

語彙リストタイプでは，記述の方法に学習者間で若干の異同はあるものの，単漢字とその英訳，（漢字）語彙とその英訳，英語の語彙とその漢字および読みを記述したものなど，覚えるべき（学習者が覚えたいと考えていると思われる）ものをリストアップして，英語か漢字（とその読み）のどちらかを隠して，もう一方を自分でチェックできるような形になっているものが多く見られた。

その他に，自分で漢字の読みや語彙の意味を確認・練習するためのものとしては，単語の暗記カードを利用し，表に漢字を使って語彙（英訳付き）を書き，裏には読みを書いてリングで綴じたものも見られた。これら語彙リストのタイプのものは，授業中に作成されたものではない可能性もあるが，漢字学習の方法としては，教科書タイプのものと同様，携帯・復習しやすいという点から非常に有効であると考えられる。

また，上記3つのタイプの他に，単に何度も書いて練習するためにノー

トに秩序なく繰り返し書いて練習したのも見られた。

#### 4-2 配布プリント

筆者が担当している初級表記法Ⅱのクラスでは、授業中に漢字のマス目シートおよび担当者作成の新出漢字を全て使用した短い文章が書かれた授業プリントを使用している。以下、それぞれについて見ていく。

##### 4-2-1 マス目シート

マス目シートへのノートテイキングについては、新出漢字近くの余白に記述するというものが多く見られた。その内容には、新出漢字を使った語彙とその英訳、語彙を使った文、語彙が動詞の場合はその動詞がとる助詞を書いて強調したもの、漢字の発音、筆順について方向の矢印と画数の番号を書いたもの、余ったマス目を利用して書く練習を行ったもの、なぞるだけでなくもう一度自分で書いたもの、漢字から連想される絵などが見られた。これら助詞や筆順、筆運びの方向、絵などについては、板書タイプのノート同様、筆者が授業時に板書したり、注意を促したものと重なる部分が多い。また、発音を記述したものについては、右の余白には音読み、左の余白には訓読みを書くという工夫を施したのも見られた。また、形が複雑で覚えるのが困難と考えたのか、特定の漢字を○で囲んだり、レのチェックを入れたりして強調しているものも見られた。

##### 4-2-2 授業プリント

筆者が当該課の新出漢字を全て使って作成した短い文章とそれに関する語彙リストをつけた授業プリントにもノートテイキングが確認できた。

授業プリントへのノートテイキングの内容としては、漢字語彙への振り仮名、文中で使われている語の反対語や関連語、新出漢字を使った別の語彙、文中の語彙の英訳、また英訳の代わりに描いた絵、文中の語彙の同音異義語、文中の新出漢字について同音の漢字を複数書いたもの、ひらがなの文中の語彙を漢字で書く際にどこで区切れるか線を引いたもの<sup>3)</sup>、文中の語彙について誤用例を書いて訂正したもの<sup>4)</sup>、文中の動詞についてその

動詞がとる助詞を強調するための○や矢印<sup>5)</sup>、似た発音の語彙を比較して書いたもの<sup>6)</sup>、また新出漢字および既習漢字を使ってひらがなだけの文を漢字仮名交じり文に直して書いたものが見られた。

語彙や振り仮名、訳、助詞の強調、絵などについてはここまでに見てきたノートやマス目シートでも見られたものであり、共通している。

### 4-3 教科書

特定のノートを作らず、教科書に直接書き込みをして参考書のように用いて学習を行っている学習者も少なくないようである。本稿で調査したノート・配布プリント・教科書の中でも教科書が比較的多く見られた。

教科書に記述された内容は、いくつかに分類できる。

#### 4-3-1 強調

まず、挙げられるのは教科書の一部、および自分がノートテイキングした内容（の一部）を○や線、矢印などにより強調したものである。強調の対象となったものについては、新出漢字、筆運びの方向、語彙、英訳、単漢字および語彙の発音、送り仮名、品詞などが見られた。

新出漢字の強調については、単漢字一字全体を○で囲って強調したものと、単漢字の一部分（構成要素）を同様に囲って強調したものが見られた。前者については、課において、当該漢字が重要もしくは学習者が覚えなければならない漢字に○を付したものと考えられる。後者については、漢字の一部分について、その部分が学習者の学習上の困難点になっているところだと考えられる。形が複雑な漢字の構成要素や、筆運びの方向、単漢字が部首になった時に形が変わる箇所を強調したものなどが見られた。

語彙に関して強調されていたものには、語彙一つ全体が強調されたもの、語彙の一部分の漢字および読み方が強調されたものが見られた。また、日本語の語彙ではなく、その英訳を強調したものも見られた。さらに、送り仮名を強調したもの、「正直な」の「な」を強調して、品詞を確認・強調したものなども見られた。語彙の強調に関しては、特に発音との関連性が

見られ、語彙の読みについて強調を付す例が見られた。例えば濁音や音便等、同じ漢字を使用している他の語彙と違う発音になる箇所が強調されているものも多く見られた。

#### 4-3-2 語彙

語彙の記述に関しては、語彙を使った文、教師が授業中に追加で提示した語彙の記述が見られた。授業では、教科書の語彙について扱っているが、その中でもよく使いそうな語彙、教師の観点から最低限覚えてほしい語彙については覚えるように指導している<sup>7)</sup>。その際、教科書にない語彙を提示する場合もある。これを記述したものと考えられる。

語彙が動詞の場合には、その動詞がとる助詞を記述する例も多く見られた。これはノートやマス目シート、授業プリントでも確認できたものである。日本語を勉強する上で、助詞が重要な役割の一つを担っていることを学習者が理解していることの表れであると考えられる。

また、訓読みの部分に自他のマークを付したものも多く見られた。BKBでも37課で動詞の自他を扱っていることとも関係があるだろう。

その他、教科書で扱われている語彙の同音異義語を記述したものも見られた。熟語だけではなく、例えば「起こる」と「怒る」のような記述も見られた。

#### 4-3-3 表記と発音

表記の面に関しては、新出漢字の簡体字を書いたものも見られた。これは自国の漢字と日本の漢字を間違えないように書いたものだと考えられる。

また、構成要素のみを取り出して書いて練習したのが見られた。これについては筆運びの難しいもの、覚えにくいものを書いたものだと考えられる。

さらに、BKBの新出漢字の部分には画数と筆順を示す箇所が設けられているが、その部分への記述も多く確認できた。この部分では1マス1画

ずつ書き足していく形で新出漢字の画数と筆順の提示がなされているが、画数が多い漢字用のためか 34 マス (1 行 17 マス 2 行) 設けられている。17 画以下の漢字については教科書に提示されているのと同じように 2 行目に 1 画ずつ書き足して練習したのが見られた。また、画数が 18 画以上のものについては、構成要素毎に書いたのが見られた。別の学習者の例では、余っているマス全てに新出漢字を書いて練習しているものも見られた。また、この余っているマスに構成要素のみを書いたものも見られた。

発音に関しては、例えば「セイ」という音読みを持つ単漢字を列挙したものや、「通過」という語彙から「交通」「過去」と語彙の音から他の語彙を連想して書いたものも見られた。後者の例は語彙との関係でも考えることができよう。

他にも教科書の訓読みの辞書形をます形に直したものや、漢字の音読みのカタカナ表記をひらがな表記に変えたもの、音読みの隣にハングルで読みを書いたものなどが見られた。これらは学習者が自分の勉強の際の利便性を高めるために書いたものだと考えられる。ひらがな表記に変えたものについては、漢字の振り仮名がカタカナで書かれているという場面が教科書や辞書以外ではあまりないということを考えても良い方法であると考えられる。

#### 4-3-4 その他

その他、教科書への記述には表紙裏の白紙ページに後で復習すべきページの番号をリストアップしたもの、特定の課の先頭のページに☆を 3 つほど書いて重要な課であることを強調したもの、教科書の語彙に「べんり」と記述したもの、同様に語彙にハートマークを付したものの、動詞の自他のリストのページに「これを勉強！」と英語で書いたものなど、復習時のための自分への指示や実生活で役立つと思われる語彙に対するの評価なども見られた。復習の際に教科書を使用していることがうかがえる。

また、教科書には各課の後半部に問題が付されている。授業時にはこの

部分を扱ってはいないが、この問題の解答を書いているものも見られた。

## 5. ノート・配布プリント・教科書に見られる共通点

ここまで、ノート（その他）・配布プリント・教科書と記述された対象毎にどのようなノートテイキングがなされていたか見てきたが、これらに共通して確認できた点について、見ていきたい。

まず、どの対象においても一部分を強調するという方法が見られた。どのような記号や方法を用いるかは学習者により異なっていたが、○、×、\*、□、☆、△、レ、！、下線、波線（下線、波線に関しては、蛍光ペンの使用も確認できた）、矢印などを使って、覚えるべき対象を強調するという方法が確認できた。

また、語彙やその発音、訳、動詞がとる助詞についても共通してノートテイキングが行われていた。漢字学習が単漢字の学習ではなく、語彙や助詞、文との関連の中で行われていることの表れであると考えられよう。

以上の共通点の他に、どの対象においても、語彙や文法、振り仮名表記、漢字表記に誤用が確認できた。ノートテイキングの内容まで細かく確認して指導する必要性について本稿では考察しないが、学習者がノートテイキングしている内容（特に日本語に関わる部分）については、誤用もあるということは認識しておく必要があると考える。

また、ノートテイキングの際、使用されていた言語については、日本語・英語・韓国語・タイ語が確認できた。これは学習者の使用言語によるものである。

また、授業に関係がないと思われる落書きも確認できた。

## 6. まとめと今後の課題

以上、見てきたように、学習者のノートテイキングにはさまざまなものが見られた。しかし、その多くの内容は共通したものであり、学習者が

行っているノートテイキングはその記述の対象こそ違え、基本的な部分ではあまり差はないのではないかと考えられる。しかし、この結果は多くの学習者のノートテイキングをまとめて、整理したものであり、どの記述対象であれ、一人の学習者が複数の方法を使用していることは想定できても、その全ての方法を使用していたということにはならない。今後は、本稿で確認できたノートテイキングについて、学習の初期段階で指導することで、学習者が自分にあったノートテイキングを選んだり、自分が行っていた方法を捉え直し、改良したりする機会に結び付けることができるのではないかと考える。もちろん、本稿で見たノートテイキングはあくまで好意的に見せてくれた学習者のものだけであり、この他にもまだいろいろなノートテイキングがあることは当然考えられる。また、ノートテイキング以外にも学習方法はさまざまにあるであろうし、すでにそれを実践している学習者もいるであろう。これらについては今度の課題とし、学習者により効率の良い漢字学習の環境を提供するために、まずは本稿で得た調査結果を活かし、今後の指導を行いたい。

#### 【注】

- 1) 新出漢字学習の際に、同じ部首(構成要素)・音・語彙・例文・反対語・絵・新出漢字を覚えるためのストーリーなどを連想して自由に記述する方法の実践を行った。
- 2) 配付プリントとしては他にも新出漢字を使って作文をする等の宿題のプリントがある。
- 3) 例えば、文中の「15 かいだて」という部分について「かい」「だ」の間を区切って下線を引いたものが見られた。
- 4) 例えば、雑誌という語彙について「雑」と「木偏+志」で熟語を書き、後者の字を○を付けて強調し、その上から×を付けて正しい漢字「誌」を書いたものが見られた。
- 5) 例えば、文中の「結婚(する)」という動詞から、その助詞「と」に矢印を引いたものが見られた。
- 6) 例えば、文中の「せんしゅう」という語彙の上に「先週」と漢字表記をし、

その上に「せんしゅ」および「選手」という発音が似た語彙と漢字表記を書いたものが見られた。

- 7) これは少なからず、教科書の語彙に付されていた語彙の強調にも影響を与えていると考えられる。

#### 参考文献

- 池田幸弘 (2009a) 「漢字基礎調査—構成要素を活用した漢字学習・教育へ向けて—」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』16, pp. 99–115.
- 池田幸弘 (2009b) 「連想を用いた漢字学習へ向けた漢字基礎調査—『コミュニケーション日本語』所収漢字の構成要素—」『三田國文』49, 慶應義塾大学国文学研究室, pp. 17–38.
- 池田幸弘 (2009c) 「初中級段階における連想を用いた漢字学習法—既存知識を活用した漢字学習の一つの試み—」『日本語と日本語教育』37 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター, pp. 177–191.
- 加納千恵子 (1997) 「初中級学習者に対する漢字指導の一試案—補講「漢字Ⅱ」クラスにおける授業報告—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』(12), pp. 139–153.
- 小林敬一 (2000) 「共同作成の場におけるノートテイキング・ノート見直し」『教育心理学研究』48, pp. 154–164.